

(2)環境影響の回避・低減の検討

土地又は工作物の存在及び供用に当たっては、重要な種の生息状況に及ぼす環境影響は、以下に示すとおり、事業者により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されており、環境の保全についての配慮が適正になされていると評価した。

①飛行場の存在

ア)植生環境の変化

植生環境の変化による影響は、海域を主に利用する鳥類、海浜部を主に利用する甲殻類についてはいずれの種についても生息環境の減少面積、減少率はごく僅かであること、及び山地林を主に利用する種については、環境保全配慮を講ずることによりいずれの種についても生息環境の減少面積、減少率はごく僅かであることから、重要な種の生息状況に及ぼす環境影響の程度は低減されている。

洞窟に生息する種については、消滅する洞窟があるため、生息環境は減少するものの、改変の影響を受けない洞窟にも同じ種が生息していることから、個体群維持に及ぼす環境影響の程度は極めて小さく、重要な種の生息状況に及ぼす環境影響の程度は低減されている。

二次林を主に利用する種については、事業実施区域内の二次林が人工草地や舗装面に変わることにより、生息環境が減少することとなるが、周辺に二次林は広く残されており、いずれの種についても減少面積、減少率はごく僅かであることから、植生環境の変化が生息状況に及ぼす環境影響の程度は極めて小さく、生息状況に及ぼす環境影響の程度は低減されている。

イ)移動障害

内陸部でも確認されたオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、ヤシガニについては繁殖期の海浜部への移動の際に影響が生じるおそれと考えられる。しかし、直立した擁壁などの構造物が海浜部に設置されることはなく、海浜部のモクマオウ植林及び海浜植生は現状のまま残され、海岸線近くまで張り出した植生が保たれることから、海浜部へ降りていくことは可能であると考えられること、空港西側及び北側に創出する緑地は移動経路として利用できるよう配慮することから重要な種の生息状況に及ぼす環境影響の程度は低減されている。

なお、ボックスカルバートについては、ヤシガニやオカヤドカリ類の利用が期待できることから、移動経路としてより利用しやすい形状となるよう配慮する。